

この度マレーシア ペナン島で開催されたアジア太平洋ヘルニア学会 (APHS)に参加しました。マレーシアどころかアジアへの渡航自体が初めてであり、楽しみとともに少し緊張しながら現地入りしました。

ペナン島は多くの国からの旅行客が訪れるアジア有数のリゾート地であり、到着日には少し時間もあつたため、現地の方と交流することができました。中でも「日本は医療が発達しているだけでなく、皆が等しく医療を受けることができる。それが我々にとってははすごくうらやましい。」と言われたことは非常に印象深く残っています。

学会発表は、Oral presentation, Video presentation, e-Poster で構成されていました。今回は当院で行っている巨大食道裂孔ヘルニア手術手技の紹介と手術患者 136 名における治療成績についての Video presentation での発表でしたが、Video が流れると何人かの先生が写真を撮ってくださったり、質問を頂いたり短い時間ではありましたが、注目いただけ良かったと思います。しかし、発表内容を国際学会の場でアピールできるようにするためには、やはり Oral presentation での発表であり、さらなる英語力の向上が必要であると痛感しました。

何名かの日本の先生方の発表を聴講しましたが、非常に丁寧で膜構造に基づいた繊細なヘルニア手術動画が多く、一方でアジア諸国の発表ではアイデアにあふれた発表内容が多くみられ、特に腹壁癒痕ヘルニアのセッションではこちらが思いもつかないような手技工夫が紹介されており、興味深かったです。肥満患者が多いのも手技工夫に至る背景かもしれない。様々なセッションに参加することができ、改めてヘルニア疾患領域の深さを知る良い機会に恵まれたと思います。

今回 APHS Scholarship に選出頂き、国際学会発表経験ができましたこと、日本ヘルニア学会理事長の蜂須賀丈博先生、国際委員会委員長の三澤健之先生、関係各位に深く感謝申し上げます。今後も日本ヘルニア学会を通じて、国際発信していけるような発表および論文化に向け尽力したいと思います。